

平成30年度劇場・音楽堂等機能強化推進事業
(地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)

成果報告書

団 体 名	公益財団法人徳島県文化振興財団	
施 設 名	徳島県郷土文化会館（あわぎんホール）	
助成対象活動名	公演事業・人材養成事業・普及啓発事業	
内定額（総額）	9,325	（千円）
公 演 事 業	6,876	（千円）
人 材 養 成 事 業	479	（千円）
普 及 啓 発 事 業	1,970	（千円）

(2) 平成30年度実施事業一覧

【公演事業】					
番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	AWA伝統芸能創造発信プロジェクト2019	2019.2.1~2.3	主な出演者：阿波路会、野澤徹也、徳島邦楽集団、阿波おどり振興協会、GONNA 他	目標値	2,700
		あわぎんホール		実績値	1,738
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
平成30年度の目標値、実績値				目標値	2,700
				実績値	1,738

(2) 平成30年度実施事業一覧

【人材養成事業】					
番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	人形遣い派遣事業	2018年5月～2019年2月	指導者：勸緑（木偶舎主催・元文楽技芸員）	目標値	500
		新野中学校ほか		実績値	325
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
平成30年度の目標値、実績値				目標値	500
				実績値	325

(2) 平成30年度実施事業一覧

【普及啓発事業】					
番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	芸術家派遣事業（福祉施設派遣型）	2018年4月～2019年3月	派遣アーティスト：サクソフォン四重奏Quatuor B、伊藤大輔、KOTETSU、春野恵子 他	目標値	350
		県内福祉施設ほか		実績値	382
2	芸術家派遣事業	2018年4月～2019年3月	派遣アーティスト：住友紀人、吉川武典、津軽三味線ユニットあんみ通 他	目標値	1,000
		県内教育機関ほか		実績値	709
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
平成30年度の目標値、実績値				目標値	1,350
				実績値	1,091

【妥当性】

自己評価

社会的役割（ミッション）や地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。

あわぎんホールの社会的役割や地域の特性に基づき、適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められているか。→ 達成

（その理由）

【公演事業】

徳島の伝統芸能の豊かな土壌をさらに掘り起こし、一層の振興・普及促進を図る伝統芸能事業であった。また、アウトリーチ等の普及啓発プログラムなどを盛り込むなど工夫を凝らした事業とすることで、あわぎんホールを文化拠点とした文化芸術による地域活性化・豊かな地域づくりを図った。

【人材養成事業】

地域に根ざした芸能である阿波人形浄瑠璃の根幹を担う若手人材の育成を図った。

【普及啓発事業】

実演芸術の鑑賞機会の充実を図ることが主目的ではあるものの、芸術文化の持つ社会包摂機能を活かした事業展開となった。

助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。

助成に値する文化的、社会的、経済的意義が継続して認められる事業となっている。→ 達成

（その理由）

【公演事業】 【人材養成事業】 【普及啓発事業】

いずれも、徳島県の中核文化拠点である劇場として、徳島県内の芸術文化振興および地域活性化を図るという社会的役割を果たすために、それぞれ目標を設定し、その目標を達成すべく具体的には指標を定めている。また、指標については、ほぼ達成している。

【有効性】

自己評価

目標を達成したか。

目標は達成したか。→ 達成

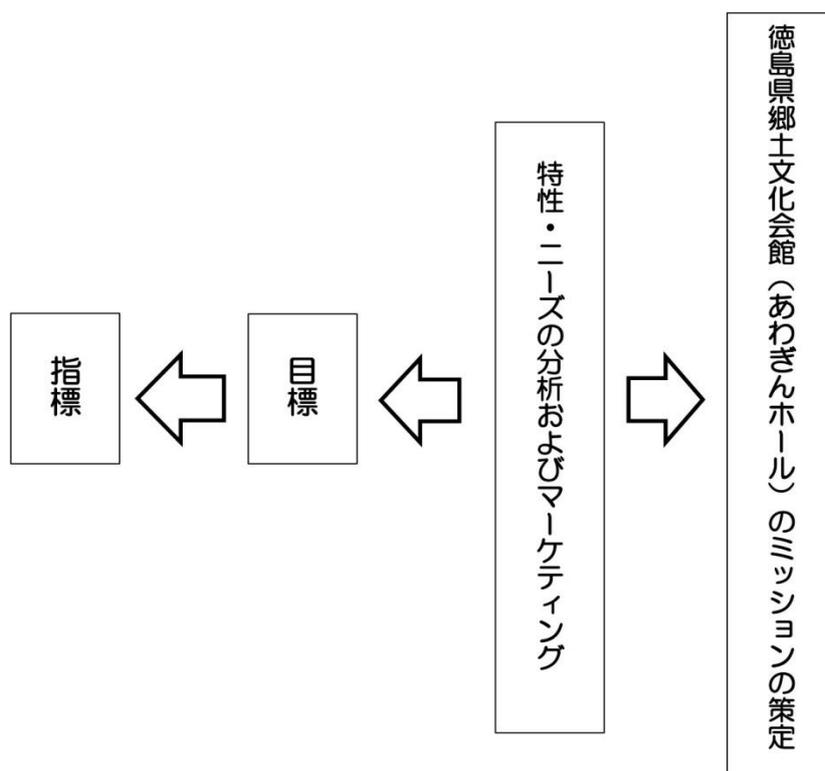
(その理由)

設定した目標と同じく定めた指標と連動しており、指標の達成イコール目標の達成である。

【公演事業】 【人材養成事業】 【普及啓発事業】

具体的記載は実績報告書のとおりであるため省略するが、それぞれ設定した指標は、ほぼ達成している。

ただし、いずれの事業でも目標の数値で達成していないものがあり、それは参加者数である。公演事業においては64%、人材養成事業では65%、普及啓発事業では80%の達成率となっている。その点では、事業の効果として「より多くの方に参加してもらおう」という点では、やや欠けていた部分があるのかもしれない。しかしながら、エビデンスとして添付する「アンケートによる顧客満足度の測定」にもあるように、参加者等からは非常に好評であり、今後の目標として「より多くの方に参加してもらおう」ことを重視した方策も採る必要があると考えている。



【効率性】

自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。
アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。

アウトプットに対して事業期間、事業費が適切であるか。→ 適切

(その理由)

【公演事業】

当初の事業期間および確定した事業期間→○

収支予算および収支決算→△

(その理由)

事業期間については、概ね当初の計画通りに進んだが、広報時期が当初の予定よりやや後ろにずれ込んだこともあり、目標の入場者数を割り込んだことの要因のひとつになったのではないかと考えている。また、事業費に関しては、当初の事業費から約16%減となっている。主な理由としては、「徳島ならではの文化事業」にこだわり、県内文化団体の更なる活用を模索した結果である。その結果、旅費交通費などで大きく削減出来、事業費の圧縮に繋がった。

【人材養成事業】

当初の事業期間および確定した事業期間→○

収支予算および収支決算→△

(その理由)

生徒のモチベーション維持に効果の高い成果発表公演を地元の指導者でもある人形座との合同開催にすることが出来たことから、事業費に関しては、当初の予算より約25%減となった。これは当初単独での開催を見込み計上していた舞台費等が削減されたためである。

【普及啓発事業】

当初の事業期間および確定した事業期間→○

収支予算および収支決算→△

(その理由)

事業期間については、参加教育機関・福祉施設等の応募により成り立つという事業の性質上、応募が少なく、施設の調整等に予定より時間を要した部分はある。事業費に関しては、当初の予算より約25%減となったが、これは応募者とのマッチングにより公演内容や派遣アーティストを決定するため、その公演内容により、当初見込んでいた舞台費や文芸費が削減されたためである。

【創造性】

自己評価

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であったか。→ 認められる

あわぎんホールの社会的役割という観点から考えると、与えられた役割とは下図のような形となる。各事業がその社会的役割を意識したものとなっており、地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮できるものとなっている。

【情報発信】

公演事業において、「阿波人形浄瑠璃」「邦楽」「阿波踊り」といずれも藍の富により華開いた徳島の貴重な文化資源であり、その資源を活用した公演とを実施することで、県内外に向けて「あわ文化」を発信するに足る事業となっている。

【文化資源・歴史資源の活用】

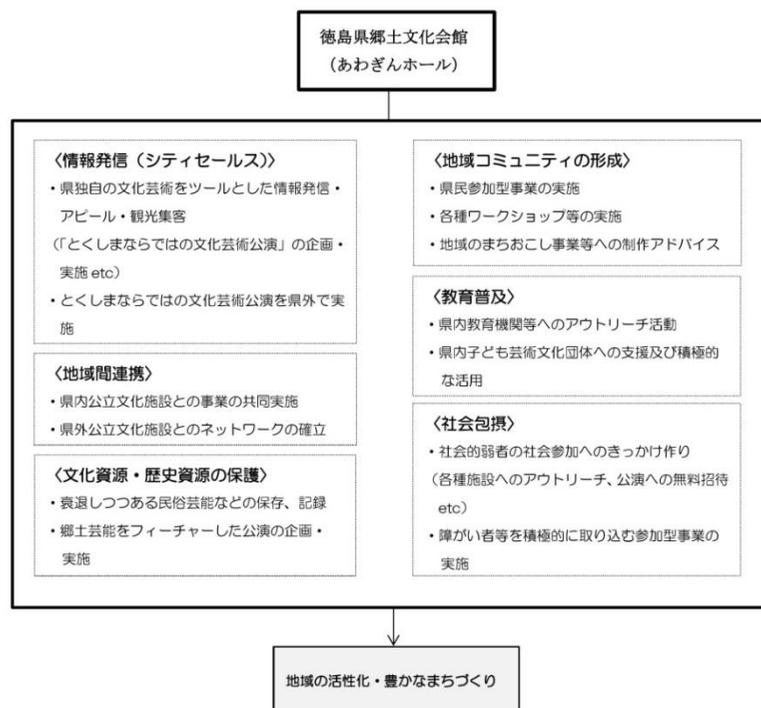
公演事業においては、貴重な文化資源である「あわ文化」が同一イベントかつ複数公演にわたって実施される機会は県内でもない。

【地域コミュニティの形成】

公演事業の阿波踊り公演などにおいては、積極的に県内文化団体の出演機会を創出し、県民参加型の要素がある。

【教育普及、社会包摂】

人材養成事業や普及啓発事業においては、教育機関はもとより、福祉施設派遣など社会的弱者の社会参加へのきっかけづくりとしても実施した。



【創造性】

自己評価

地域の実演芸術の振興など、地域の文化芸術の発展につながっていた（と認められる）か。

まずもって、地域のニーズを考える上で重要な視点として挙げられるものが、下図のように文化インフラの側面、県内の文化芸術動向の特色、地理的な特徴、地域における郷土芸能の現状の4点があると考えている。

【文化インフラの側面】

徳島県の県庁所在地である徳島市において、ホールと呼べる施設は、当館しかないという現状がある。

【県内の文化芸術動向の特色】

徳島県の文化施策として、「阿波人形浄瑠璃」「阿波踊り」「ベートーベンの第九」「阿波藍」の4つの文化が徳島を代表するものとして明確に位置づけられている。

【地理的な特徴】

文化圏で言えば、徳島県は関西圏であり、テレビに関しても関西の民放が見られるようケーブルテレビネットワーク網が発達している。

【地域における郷土芸能の現状】

各地（主に過疎地）に伝承されている郷土芸能は衰退しており、絶滅の危機に瀕しているものが多い。その中でも、「阿波人形浄瑠璃」が置かれている立場は厳しい。

では、そのようなニーズに沿ったものを、企画立案及び実施するだけでなく、発展させていくためにどう応えていくのかということであるが、我々には40年以上にわたり劇場・音楽堂を管理運営してきたノウハウがある。施設稼働率及び自主事業実施数ともに県内随一の実績数を誇る、文字通りの地域の文化中核施設であり、また、当財団には諮問機関として県内主要な文化団体が所属する「芸術文化委員会」（11団体）が設置されており、県内の文化芸術動向が即座に察知できる環境にある。その集積されてきた「資源」を投入し、地域の文化芸術発展に貢献できるものとしている。

また、その取り組み自体の情報発信が不可欠であると考えているが、代表例として、地元紙でシェア7割強を誇る徳島新聞社と共催で事業を行うことが挙げられる。共催で事業を行うことで、事業の広報だけでなく、紙面に関連事業を取り上げてもらうなど、館としての取り組みを県内に向けて強く発信する事が出来た。また、当館は徳島駅から徒歩で10分以内の立地であり、公共交通機関を利用しての来場にも便利である。県内の劇場・音楽堂等でこれほどの立地のものは他になく、県都の中心で「徳島だからこそできる、いや、徳島のためにやらなければならない文化事業」が出来るのである。

文化インフラの側面

県内の文化芸術動向の特色

地理的な特徴

地域における郷土芸能の現状

特性・ニーズの分析およびマーケティング等に活用

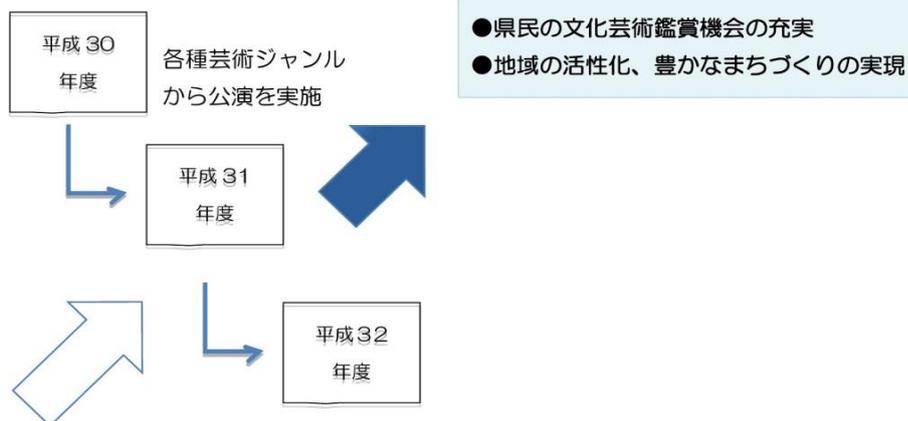
【持続性】

自己評価

事業を通じて組織活動が持続的に発展した（と認められる）か。

事業を通じて、劇場・音楽堂としての組織活動が持続的に発展するためには、その財政的基盤が強固でなければならないと考えている。しかしながら、指定管理者制度導入により、施設の管理期間自体が5年間に限られており、中長期的視野に立った考え方が難しくなっている。自己努力で収入増が図れる部分は、施設利用料（利用料金制度が導入されているため）や事業の入場料収入で、その中で財政基盤の強化を図らなければならない。現状として、県都のホールは当館しかなく、施設利用料については、安定的に確保出来る見込みである。また、事業の入場料収入についても、近年、増加傾向にあるため、収益的にも強固になりつつある。その要因のひとつに、票券管理システムの導入が挙げられる。お客様の利便性向上はもちろんのこと、無料で会員を募ることで、ダイレクトマーケティングも可能となった。会員数は、発足以来3,500名を超えたが、その会員はいわば「あわぎんホールのファン」であり、組織が持続的な発展をするその下支えになっている。また、寄附や協賛金などは調達できていないものの、この助成金含め助成金収入は比較的安定して確保することが出来ている。

また、事業全般としての維持・強化としては、PDCAサイクルの徹底により、より県民のニーズに沿った事業を展開することとしている（下図のとおり）。公演事業については、そのアンケート結果をはじめ、諮問機関である芸術文化委員会での意見交換などからニーズを汲み取り、その意見を反映する仕組みとなっている。また、ネットワークの構築としては、劇場・音楽堂間及び教育機関、福祉施設とのものが挙げられる。劇場・音楽堂間のネットワークについては、全国公立文化施設協会の中四国支部の構成館として支部発足以来務めており、主要な中四国の施設とはすでにパイプがあることから、今後活かしながら発展していくようにしたいと考えている。



【PDCAの徹底】

各事業実施後、入場者・参加者等にアンケートを必ず実施するなど、各事業評価を徹底し、より県民のニーズに合った事業を企画・実施する。